

平成 29 年度 弘前市立郷土文学館運営委員会会議録

◆平成 29 年 11 月 21 日（火）16：00～17：15

◆弘前市立図書館 2 階 会議室

◆出席委員：仁平委員長、木村委員、藤田委員、浅瀬石委員、齋藤委員

◆郷土文学館側：弘前市教育委員会生涯学習課 戸沢課長

図書館・郷土文学館運営推進室 庄司室長、工藤主幹

TRC 図書館流通センター (株) 山谷館長

郷土文学館 櫛引企画研究専門官

柏田解説員

室長	(あいさつ、出席者紹介 省略)
委員長	それでは郷土文学館運営委員会を始めます。 会議の議長は委員長お願いします。
企画研究専門官 委員長	案件 1 番、平成 29 年度郷土文学館の事業実績について説明をお願いします。 (平成 29 年度郷土文学館の事業実績について説明) 平成 29 年年度事業実績に関しまして何かご質問等ありますか。確認ですが、文学講座の備考の受講者数の所が第 6 回以降、記されていないが、こちらは何人ですか。
企画研究専門官 委員長	第 6 回は 27 名、第 7 回は 16 名。 第 1 回より第 2 回のほうが増えていた。概ねの数では第 3 回以降は 16 人です。他に質問等はありませんか。質問が無いようですので郷土文学館利用状況について説明をお願いします。
企画研究専門官 委員長 委員	(郷土文学館利用状況について説明) こちらの利用状況についてご質問ご意見などありますか。 平成 29 年度の観覧者数は年度末まではどれくらい伸びますか。
企画研究専門官 委員	3000 人前後になると思う。冬場になると気候もあり来館者が伸び悩む傾向があります。
企画研究専門官 委員	新しい企画展があるので人数が伸びるのでは。 企画展では始まる前から新聞社等から問い合わせをいただいています。話題性もあるので少し来館者が伸びるかもしれない。
委員	弘前大学で先生が学生を連れて見学したとありましたが、今年度学校単位で見学に来てくれた高校とか中学校はありましたか。

<p>企画研究専門官</p>	<p>高校については高教研図書館部会あり、中弘南黒の図書委員が集まり、人数は70名であったと思う。講座後見学を行った。また、弘前南高校でのスーパーサイエンスハイスクールで講師も依頼されて、太宰治について説明させていただいた。大学については仁平先生が来館の時以外に弘前大学の別の団体も来館し、計3回見学し、石坂展の説明を求められた。今年度は東北大学の学生も30名ほど来館。弘前学院大学の生徒も2,3度文学講座、文学散歩に参加した。昨年度に比べて、委員長はじめ先生方の御紹介もあり大学生の見学が多くあった。</p>
<p>委員 企画研究専門官</p>	<p>学生の反応はどうか。 高校生については石坂洋次郎について初めて知ったとか、こういう作家がいたのかという反応だった。大学生の方は一部知っているという生徒もいて、直筆資料などパネルに書かれている説明を見ながら一歩踏み込んだ質問だった。石坂洋次郎を知っている人は「青春もの」のイメージが強かったが、展示を見ていると「わが日わが夢」とか「石中先生行状記」など風土に根差した作品とか、明るいように見える石坂の中に実は暗い部分もあるというところに反応して、今まで知っていたイメージとは違ったという反応だった。よくそのようなところも見てくださったなと思った。今年度、石坂洋次郎を取り上げたとき「今更石坂洋次郎か」といった意見があったが、そこに対して答えるような展示にしたと思っている。</p>
<p>委員 委員</p>	<p>なかなか学校との連携がうまくいった年だったと言える。 石坂洋次郎展はとても良く出来た展示だと思う。大変勉強になり参考になった。今語られていることが企画展の事なのであれば筋違いかもしれないが、広い意味で展示の事を言うと、常設展が気になる。各地の郷土文学館のような場所に訪ねた時、こういう作家がいたんだということが勉強になる。ところが現在の郷土文学館の形式だと、平面フロアのほとんどすべてが石坂洋次郎である。壁面にはその他の主要な作家の展示はあるが、例えば前回の運営委員会の後に鎌田慧さん、根深誠さん、三浦雅士さん、工藤正廣さん、鈴木喜代春さん、そういう人たちもこの地方にいたんだという発見があった。私は知っていたが、おそらく旅人の方はそういう風に思われたと思う。そういうコーナーは絶えずなくさないでいただきたい。そういう工夫は欲しい。</p>
<p>企画研究専門官</p>	<p>先ほど申し上げたが、今年は石坂洋次郎にこだわるといこと</p>

企画研究専門官	<p>で、例えば高木恭造とのコラボとか葛西善蔵とのコラボとかいろいろ行っているが、そこに集中していたきらいがある。昨年度までは「活躍中の作家」ということで、年に一度か二度、そういった期間を設けていた。そういう展示との兼ね合いは今後考えていきたいと思う。</p>
委員長	<p>企画展と常設展との関係、企画展で光が当たる作家以外の作家をどう示していくのかが問題だと思う。今の点と関連して、弘前だと若手で小説を書いている人もいる。ややサブカルチャー寄りの作家になるかもしれないが、現代の文学とか現象を展示に取り込んでいくのは難しいか。</p>
企画研究専門官	<p>評価が定まっていない方たちなので年間通しての企画展は難しいが、スポット展では活躍中の作家よりも更に新しい若い世代として、新聞などの切り抜き等で資料収集を行っているので、今後の状況次第では展示できる可能性があると思う。</p>
委員	<p>壁面に主要な作家の方々の展示が常設である。それはそれでとてもいい展示だと思う。ただ弘前ゆかりの詩人や作家の概念をもっと柔軟に捉えて、前向きに展示していくことが重要だと思った。例えば、黒石生まれの秋田雨雀さん。この方は主要な作家であり詩人であり、童話作家、戯曲作家だと思う。旧制弘前中学出身（当時は青森県第一尋常中学校）の方である。平田小六さんは大館出身で、あれだけのスペースを占めていることを考えると、秋田雨雀さんがいないことは大変手落ちの印象を受ける。出来れば今後、秋田さんのような人も展示していただけたらと思う。</p>
企画研究専門官	<p>常設については、平成 2 年に開館した当初の構成で推移してきた。平田小六の場合は出身が大館でありながら、弘前中学で学び教員をやったというゆかりで常設に展示している。そこが来館者にとっては意外な感じがするという意見もたしかに出ている。ただ開館当初からお預かりしている資料とか遺族との関係とかで、なかなか構成を変えることはできないまま推移している状況だ。今後、将来を見据えて常設展示の構成を検討しなければと思っている。雨雀については黒石に記念館はある。黒石の文人であるという意識が強いので、おそらくこちらで扱わなかったと思われる。県の近代文学館の 13 人の常設の中には雨雀が入っている。弘前の郷土文学館との差別化を図るという点では雨雀の位置は微妙なところだ。いろいろな方面から検討していきたい。</p>
委員長	<p>案件 3 郷土文学館資料収集状況について説明をお願いします。</p>

企画研究専門官	(郷土文学館資料収集状況について説明)
委員長	ご質問ご意見などありますか。
委員	資料収集とは積極的に呼びかけているものか、それとも企画展があり、関係者に声を掛けているものなのか。
委員	収蔵庫が手狭な状況だ。開館当初は積極的に集めていたが、今は選んで収蔵したいので積極的な声掛けはしていない。今年度は、いずれも相手方から声を掛けられ寄贈を受けた。
企画研究専門官	郷土文学館に持って行きたいが、狭くて迷惑になるという意識が働くと思う。そういうことか。
委員	おそらくそういう意識だと思う。
企画研究専門官	あまり歓迎しないということか。
委員	収蔵スペースがあれば収集していきたいが、平成2年から27年経っているので収蔵スペースはかなり厳しい状況にある。もしいただいても置く場所に困るだろうという状況は県内外の文学館にも共通して見られる。声を掛けていただいた所へ足を運んでも、郷土の作家の関係資料は共通するものが多いので、既に収蔵しているものもお断りをする場合もあった。
委員	郷土文学館のことから超越してしまうが、旧市立図書館という施設がある。その2階か3階に弘前市関連の同人誌が書棚に並べられている。粗末な感じでただ並んでいるという印象を受ける。もう少し整理した形で展示すると同時に、呼びかけていない分野も充実させていくということも必要ではないか。北上市にある日本現代詩歌文学館という全国的な文学館があり、とても充実している。そこは現代詩も短歌も俳句も川柳も分野ごとにスペースを全く取らないような形で数多く展示して、絶えず現在形で雑誌を受け入れる体制を整えている。せめて弘前の文芸誌が隔たりなく展示されるコーナーを、郷土文学館が手狭であれば図書館あるいは旧市立図書館の空いているスペースに棚替えをして展示するというのも一つの案と考える。
企画研究専門官	新しい同人誌に関しては、前までは旧市立図書館に一部新しいものを移して、大雑把な解説で展示していた。旧市立図書館に関しては指定管理になる前は文学館の職員が受付にいたが、今年度からはそれがなくなり、文化財課が管理しているのでそちらと相談する必要がある。ちなみに旧市立図書館は青銀の前の広場に移転する予定だ。
委員	私は齋藤吉彦を存じ上げない。まだ全集にも載っていない貴重

<p>委員</p>	<p>な資料が見つかったということだが、全集に載っていないことを強調するとか、資料が見つかったということアピールすると大変面白いのではないかと思う。</p>
<p>企画研究専門官 委員長</p>	<p>準備の際にそういったことを検討していきたいと思っている。 案件4 平成30年度郷土文学館の運営方針について説明をお願いします。</p>
<p>企画研究専門官 委員長 委員</p>	<p>(平成30年度郷土文学館の運営方針について説明) ご質問ご意見などありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>秋田雨雀とか寺山修司であるとか、研究が進むことで弘前ゆかりの文学者も増えていくので、常設の一度見直しを前向きにお願いしたい。もう一つは豊島区の方でトキワ荘の再現をする予定だが、豊島区図書館で豊島ゆかりの文人として秋田雨雀や加藤謙一を非常に重要視している。弘前でその人たちを顕彰すると、東京と弘前のラインで観光ルートができる可能性がある。もう一つは東京の方々がこちらにお連れすると、興味を持たれるのが方言詩のコーナーである。ここには一戸謙三や高木恭造のジャンジャンの映像もある。方言詩のコーナー、秋田雨雀、寺山修司とか、工藤達郎先生とか弘前を中心とした演劇のコーナーもおもしろいと思う。齋藤吉彦も柳田國男との関連で郷土文学と郷土史の中間あたりにいる方だ。難しいが吉彦自身も方言詩人や文学者との交流もあったようだ。文学に興味のない人を呼び込む人材だと思う。そういう方をふんだんに取り入れて展示をしていければいいと思うと皆さんのお話を聞いて思った。</p>
<p>企画研究専門官</p>	<p>豊島区については加藤謙一の展示を通してトキワ荘の図版なども提携していただいている。アニメ・マンガだけではなく、文学まで広げて文化面で親交を深めていける。連携しながら見えてくるものがあると思う。常設展示の構成については、今展示している方々の資料寄贈経緯などがあるので慎重に検討していかなければならない。</p>
<p>委員長</p>	<p>加藤謙一の展示は魅力的なものになると思う。弘前大学にも加藤謙一文庫の資料もたくさんあるので協力関係を持ってやっていく。大学の加藤謙一の資料にあまり光が当たっていないので、大学側の努力も必要である。加藤謙一の企画展は全国的に脚光を浴びてもおかしくない。調査・研究を踏まえた上での展示により狭い文化を超えていくところがある。いわゆるマンガ文化に関する研究も近年発展している。その点で加藤謙一を研究対象にするこ</p>

企画研究専門官	<p>とは難しいか。</p> <p>企画展のサブタイトルが『少年倶楽部』から『漫画少年』へ』ということで手塚治虫を核にしてその後のマンガ文化を担ってきた人たちが『漫画少年』にかかわってる。そちらの方に詳しい方の協力を得ながら、今回の展示を基盤としてマンガ文化についても積み重ねていけたらと思っている。</p>
委員長	<p>藤子不二雄 A の「まんが道」のラストシーンが『漫画少年』休刊である。まさしくマンガの歴史を創り上げてきた『漫画少年』がなくなるということに若い漫画家たちが衝撃を受けつつ、自分たちの道を歩もうとするという文字通りマンガの歴史の転換点となるように『漫画少年』が語られている。その意味でも歴史的に価値がある。そこからさまざまな企画が生まれると思うし、できることから協力したい。</p>
委員	<p>少年倶楽部時代の掘り起こしも必要である。田川水泡の「のらくろ」、ライトノベルの祖のような形で佐藤紅緑、吉川英治は最近再評価が進んでいる。いったん忘れられ近代文学からこぼれ落ちた読みやすい作家をもう一度読み直すきっかけになると思う。</p>
企画研究専門官	<p>今回の展示の前半はそちらの方に光を当てた展示になると思う。</p>
委員	<p>文学館の基本的な在り方にかかわるが、住み分けではなく連携して欲しい。青森や黒石に展示しているからよいではなく、重複してでもいいから東京の〇〇、横手の〇〇、黒石の〇〇、青森市にある〇〇と連携していくような形が欲しい。訪ねてくる方は弘前は来るけども黒石には行かないという方の方が圧倒的に多い。ここは文化の発祥地であるので、重複することを恐れずに企画、内容を充実させて欲しい。</p>
企画研究専門官	<p>石坂洋次郎展はかなりの部分を横手の石坂洋次郎記念館から借用して展示している。今まではほとんど地元のものだったが、今回協力を得た。昨年招かれて横手に行ってきたが、石坂がどちらの作家かということではなく、日本国中で石坂洋次郎を中心に扱っているのは横手と弘前しかない。そこで協力する機運を高めていけると思っている。弘前と別のところと連携というのは大事なこととして実感している。</p>
委員	<p>文学講座を多彩にということでは音楽を取り入れているところが非常に前向きで良い。最近各地の文学館で文学館のコンサートも増えている。その中で啓発できると思う。アップルウェブでの</p>

<p>委員</p> <p>企画研究専門官</p>	<p>石坂作品の朗読が各地で好評である。文学作品を目でなく耳で聞く機会がアップルウェブとの連携でできたということはよい点だった。これからも継続させて欲しい。</p> <p>アップルウェブと連携したことによりフリーペーパーにも写真入りで大きく取り上げてもらっている。今まで以上に文学館の地味なイメージが変わることができた。私の朗読はこれからさらに勉強したい。</p>
<p>委員</p> <p>委員</p>	<p>耳から聞いて石坂文学の良さが分かったという人が多い。</p> <p>この方針を見てワクワクする気持ちが大きい。一般の方に向けてとか多ジャンルを取り入れるとかそのようなワードが出てきて文学に収まらずに、広いものを感じることができた。これからも伺わせていただきたい。</p>
<p>委員長</p> <p>室長</p>	<p>他に何かありませんか、無いようですので案件4を修了させていただきます。会議は以上となります。</p> <p>以上を持ちまして郷土文学館運営委員会を閉会します。 (館長あいさつ、事務局連絡 省略)</p>